

令和元年度 第4回田原市地域公共交通会議会議録

会 議 名	[第52回]令和元年度 第4回田原市地域公共交通会議
開 催 日 時	令和2年1月10日(金)10:10～12:05
開 催 場 所	田原市役所 講堂(南庁舎6階)
出席者氏名 (敬称略)	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田原市副市長 鈴木 正直[会長] ○田原市都市整備部長 鈴木 隆広[副会長] ○豊鉄バス株式会社常務取締役営業企画部長 坂本 直也 ○豊鉄ミデイ株式会社取締役支配人 田辺 征也 ○渥美交通株式会社代表取締役 鈴木 雅 ○愛知県タクシー協会豊橋支部長(豊鉄タクシー(株)取締役社長)(代理)課長 長谷 泰幸 ○豊橋鉄道株式会社代表取締役社長 (代理)部長 中尾 悦唯 ○田原市老人クラブ連合会長 伊藤 明宜 ○田原市地域コミュニティ連合会長 山本 五夫[監事] ○田原市商工会工業部会長 天野 英一郎[監事] ○一般社団法人田原青年会議所理事長 河合 真樹 ○国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 小川 賢二 ○豊橋鉄道労働組合中央執行委員長 長坂 和俊 ○愛知県都市整備局交通対策課主幹 (代理)主事 安藤 悠太 ○愛知県東三河建設事務所維持管理課長 (代理)課長補佐 小林 利光 ○名古屋大学大学院環境学研究科教授 加藤 博和[副会長][議長] ○豊橋技術科学大学建築・都市システム学系助教 松尾 幸二郎 ○渥美半島観光ビューロー事務局長 長神 友昭 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>都市整備部街づくり推進課長 小久保 智宏 <input type="checkbox"/>都市整備部街づくり推進課課長補佐兼都市政策係長 鳥居 伸光 <input type="checkbox"/>都市整備部街づくり推進課都市政策係主事 田中 裕崇
欠席者氏名 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ○公益社団法人愛知県バス協会専務理事 小林 裕之 ○東海北陸旅客船協会(伊勢湾フェリー(株)取締役社長) 福武 章夫 ○田原市民生児童委員協議会主任児童委員 山下 葉子 ○愛知県田原警察署交通課長 小笠原 宏時
報 告 事 項	<ol style="list-style-type: none"> (1) 伊良湖本線・支線(豊鉄バス(株))の乗降者実績・事業評価及び高校生バス通学用定期券購入助成について (2) 田原市ぐるりんバス令和元年度の実績について (3) 泉おもいやりタクシー事業について (4) 豊鉄ミデイ(株)によるぐるりんバス利用促進の取組について
協 議 事 項	<ol style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(案)について → 承認

会議の要旨	以下のとおり。	傍聴者	0名(記者0名・随行者2名)
<p>会長 (副市長)</p> <p>加藤議長 (名大教授)</p> <p>松尾委員 (技科大准教)</p>	<p>[1 会長挨拶]</p> <p>皆様、少し遅くなりますが、新年 あけましておめでとうございます。副市長の鈴木でございます。委員の皆様方には、日頃、田原市の公共交通に関しまして、ご尽力いただき、誠にありがとうございます。また、新たに委員になっていただいた3名の方につきましては、お引き受けいただき誠にありがとうございます。</p> <p>さて、昨年を振り返りますと、田原市ぐるりんバスにつきましては、高松線の表浜線への統合、野田線からサンテパーク線への変更、八王子線の廃止などを実施し、豊鉄バスにつきましては、伊良湖支線を1便増便していただきまして、病院からの帰りの足を確保するなど、交通会議の皆様のご協力のもと、多くの変更を実施してまいりました。また、本市では、市内在住の高校生への3割の定期補助も昨年9月から実施しております。</p> <p>本年も、市民等の足の確保、利用促進などにつきまして、ここにおいで委員の皆様と一緒に考えて、そして実践し、より住みやすい田原市にしていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。</p> <p>本日の協議事項は、令和元年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(案)についての1件となっております。慎重審議、よろしくお願いいたします。以上で、挨拶とさせていただきます。</p> <p>続きまして、交通会議設置要綱第9条第2項に基づき、本会議の議長は、会長の私が指名することになっております。副会長の名古屋大学大学院の加藤先生を指名させていただきます。それでは、以後の進行をお願いいたします。</p> <p>[2 報告事項]</p> <p>(1) 伊良湖本線・支線(豊鉄バス株)の乗降者実績・事業評価及び高校生バス通学用定期券購入助成について</p> <p>※事務局より説明【資料1-1】</p> <p>※豊鉄バス株坂本委員より説明【資料1-2】</p> <p>資料1-2については、設楽町の交通会議でも話題に挙げさせていただきましたが、この事業評価票については、補助金を貰うために県で取りまとめて国へ提出する資料となりますので、本来であれば、県が説明するものだと思います。設楽町は事務局が説明していましたが、今後は、県が説明するか若しくは事務局が説明する方がいいと思います。</p> <p>資料1-2でまず見てもらいたいのは、事業評価票の中段当たりの参考数値です。特に輸送量については、15を下回ると補助が出なくなってしまうので、15に近づいている路線は、特に注意が必要ということとなります。</p> <p>資料1-1についてですが、乗降調査日で2日目に雨の日がありましたが、実績を見ると増加しており、良かったと思いますが、実態を把握のために通勤・通学にどの程度影響するような雨であったかを教えていただけますでしょうか。</p> <p>また、2日間の調査であるため、バラつきがあるとは思いますが、資料1-2でも</p>		

	<p>平成27年度からの実績が載っているため、もう少し長期間で出していただいて、グラフにさせていただくと、より実態が分かりやすいかと思います。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス株)</p>	<p>雨の日については、高校生などが自転車通学をやめるほどの雨ではなかったと報告を受けております。また、一般的には雨の方が徒歩や自転車で通勤・通学している方が、バスに乗り換える傾向にあります。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料については、平成27年度からの実績をグラフで示すなど、分かりやすいように次回から作成いたします。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>この調査は、年に2日だけの調査で本当の実態が分かるのかという疑問はあります。現在、国交省でも議論しておりますが、ITが発達しているので、乗降センサーやドライブレコーダーを使っただけの顔認識などが考えられていて、数年の内には、そういった方法で調査ができるのではないかと思います。あと資料1-1の高校生の利用実績については、高校生以外も含まれているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市内3校の登校・下校時間帯の最寄りバス停の利用者数を集計しているため、一般利用者も含まれている可能性が高く、あくまで推計の数値となります。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>通常であれば、登校よりの下校が多いというのは、あまり考えられないと思いますので、一般の方も入っているのだと思います。そう考えると制服を着ている人を数える必要があるとは思いますが、定期券の助成の関係で約3割ほど増えているとのことですが、それだけでなく、実際にどんな人が購入しているのか、助成がきっかけで購入する人が増えたかなど見てかないといけません。場合によっては、アンケート調査も必要じゃないかなと思います。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス株)</p>	<p>通学定期については、当然ながら少子化の影響もあり、年々微減している傾向がありました。しっかり分析ができておりませんが、私を感じるところによりますとここ数か月は、減少傾向が止まっていると感じます。今後は田原市さんと協力しながら効果を検証したいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>市内の高校生に3年に1度の間隔でアンケート調査をしており、来年度がその年となりますので、定期の効果等を検証できるようなアンケートを実施したいと考えております。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>定期助成については、中学3年生には周知していますか。現在、通学している子が通学方法を変えるというのは難しいと思うので、中学3年の学校選択の際に周知をする必要があるかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>毎年7月頃に中学3年生へ高校選択に合わせたバスの利用促進パンフレットを配布しており、その中で定期助成の周知をしております。定期助成については、教育委員会が事務局となっておりますが、我々も協力して周知していきたいと考えております。</p>

<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>私はよく3Kと言っていて、高齢者・高校生・観光客の3つが公共交通を選択する可能性が高い人たちだと思います。高齢者・観光客の状況についても乗降調査で把握できると伊良湖本線・支線の活性化策につながっていくかと思います。</p> <p>伊良湖支線については、距離的に近いこともあるかもしれませんが、赤羽根地域の利用が少ないことが気になります。伊良湖支線については、いろいろな取組をよりやっていく必要があると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>伊良湖支線については、利用者が少ないことから便数も少なくなっていますが、昨年10月に支線を1本増便していただいた際に、沿線のすべての地域に利用促進のお願いをいたしました。今後はさらに、これまで出向いていなかった地域にも協力や周知のお願いをしていきたいと考えております。</p> <p>(2) 田原市ぐるりんバス令和元年度の実績について ※事務局より説明【資料2】</p>
<p>松尾委員 (技科大准教)</p>	<p>市街地線を統合して1便当たりの利用者数は大幅に増加したものの、利用者数が約2千人減ってしまっています。細かいですが、サンコートバス停が廃止となり、近くに東赤石バス停があるのでそこに乗り換える見込みということで、路線変更をしたかと思いますが、東赤石もそこまで増えておらず、原因などは分かっていますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>サンコートについては、常連の方がいるなかで、東赤石バス停が100m程度の距離であるため、そちらで乗ると想定していましたが、結果、乗らなくなってしまいました。今後は、利用者の減少理由についても分析していきたいと思います。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>こういった路線変更の際に私がよく言っていることですが、よく乗られる方が1人減るのがいいのか、たまにしか乗らない人が100人減の方がいいのかということです。個人的な意見としては、たまに乗られる人が多く減る方が怖いと感じます。公共交通としては、たまに乗られる方が気軽に乗っていただいて、多くの方に利用していただくのが大事かと思います。ある自治体では、総利用者数は2万人程度で多いものの、実際の利用者は何人かということ調査したところ、55人しか乗っていないということがありました。人口が5万人の内55人しか使っていないということで、市としてどう考えるのかということもありますが、私としては、55人が100人、200人に増えることが大事だと考えています。</p> <p>バス停ごとに減少理由があると思うので、それぞれ分析していただければと思います。</p> <p>(3) 泉おもいやりタクシー事業について ※事務局より説明【資料3】</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>この種の事業については、私も多く携わっていますし、全国的にも広がっています。大体の掴みで言うと10人登録があれば1人が利用するような感じで、その</p>

	<p>方々が数か月に1回使うような感じだと思います。利用が多ければいいというものではないですし、利用する方にとっては、必要なものですので、移動の最低限を支える公共交通だと考えています。</p>
<p>松尾委員 (技科大准教)</p>	<p>この事業は、セーフティネットの役割があり必要なことだと思いますが、利用者がいないと、この事業があることすらも忘れていってしまう可能性が怖いと思います。福江までみんなで行ってみようなどの小さなイベントがあってもいいと思いますが、今はどの程度、周知していますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>対象の地域にチラシを全戸配布したり、各地域の自治会長さんには敬老会等の場で周知をお願いしています。利用がない原因としては、まだ運転ができて利用する必要がないのか、家族の送迎で間に合っているのか分かりませんが、登録者の6名は分かっていますので、校区会長さんと相談していきたいと思っています。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>このような事業は、地域のやる気にもよると思いますが、他の地域に広めていく考えはありますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在のところは、八王子の代替手段の事業と考えておりますが、渥美地域にタクシーが1台しかないという事情もありますので、やりたいという地域があれば、そのような事情も勘案して検討していきたいと思っています。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>今後の法改正で、事業者協力型有償運送という制度ができる予定です。タクシー・バス事業者が運行管理をして、白ナンバーの免許の方でもドライバーができるという制度です。交通会議で協議が必要となる予定ですが、どこまで要件を緩和するかというのは、今検討しているところです。なので、今後はタクシー会社が運行管理をして、地域のボランティアが運転するというのも出てくると思います。</p>
	<p style="text-align: center;">(4) 豊鉄ミデイ(株)によるぐるりんバス利用促進の取組について ※豊鉄ミデイ(株)田辺委員より説明【資料4】</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>今回の豊鉄ミデイさんの取組のように、地域の利用促進の取組などを公共交通会議で報告することは、どんな取組をしているのかが分かるので大事なことだと思います。また、こういった取組をいろんなところで情報発信することも必要だと思います。ちなみにぐるりんバス車内では、広告やPRの掲示などは行っていますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ぐるりんバスの車内に市のイベントや周知事項等のチラシの掲示をしております。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>いろいろな交通会議に出席していますが、バスのラッピングを子供に描いてもらった絵にしたり、車内をギャラリーにするなどの取組をやっているところがあります。また地域の方が盛り上がっているような取組をしているところもあるので、バスの内外を使っていろんな活用を考えていただければと思います。</p>

<p>天野委員 (商工会)</p>	<p>[3 協議事項] (1) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(案)について ※事務局より説明【資料5】</p> <p>中部様式2のアピールポイントのところに、コミュニティバスのオープンデータ化に着手という記載がありますが、内容とどのようなスケジュールで取り組んでいくのか教えていただけますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>バスの時刻表や路線図などをデータ化したGTFSデータというものの作成に取り掛かっております。このデータを作成することで、Googleマップへデータを提供できれば、地図上でバス停の位置や乗換案内の検索が可能となります。また、他の乗換案内サービスにも情報提供がスムーズに行えるようになります。そのデータの作成に着手したということです。また、現状としては、乗換案内サービスのエキスパート、NAVITIME、ジョルダンへはコミュニティバスの情報提供をし、検索できる状態となっております。</p>
<p>天野委員 (商工会)</p>	<p>昨年の秋に博物館で山本二三展が開かれ、すごく入場者数が多かったと聞いております。渥美線を利用して若い人たちが多く来ていましたが、これは渥美線だからできたのであって、これが菜の花まつりの会場にGoogleマップを利用して来ようと思うと、Googleマップでは検索できなくなっています。伊良湖本線や支線のデータを載せようと思うとかなり費用は掛かるのでしょうか。また、加藤先生に伺いたいのですが、全国的にバスやフェリーのデータがGoogleマップに反映されているのは少ないと思いますが、今後、コミュニティバスはどう対応していくのが良いのでしょうか。また、他市等の事例があれば教えていただければと思います。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>田原市のコミュニティバスは、情報提供が比較的できている方で、豊鉄バスは少し遅れている状態だと思います。Googleマップに載せるためには、GTFSデータの作成が必要ですが、Google側からは、データを拾って載せてはくれないので、お金は掛かりませんが、データを提供する必要があります。データの作成を支援する団体や国や県でも研修会を開いているので、研修会等へ参加すれば、作成することは職員でも可能かと思えます。気を付けなければならないのは、作成した職員はやり方を知っているが、後任の方がデータを更新できないということがあります。そうすると古い路線が検索されてしまうことがありますので、個人単位で取り組むのではなく、職場単位で対応することが必要かと思えます。</p> <p>今、Googleマップで豊橋から伊良湖へ行く方法を調べてみると、名古屋経由で鳥羽まで行き、そこからフェリーというような乗換案内が検索されます。これはなぜかと言うと豊鉄バスのデータが提供できていないということになります。20代以下の若い方や外国人などは、ほとんどがGoogleマップで検索するので、インバウンドを考えると渥美半島にはバスが通っていないのかと思われてしまいます。特に観光地は大事かと思えます。先日、鳥羽市の会議がありましたが、鳥羽市では鉄道はできていますが、バスができていないので、来年・再来年で重点的に取り組むようになっています。</p>

<p>坂本委員 (豊鉄バス)</p>	<p>インバウンドを考えると伊良湖という観光地がありますので、訪れる方がそういった乗換案内を利用できれば、利便性の向上に繋がると思いますし、会社としてもお問い合わせの減少や乗務員の負担軽減にもつながると思います。今後は、時代に対応した環境作りを一日でも早く進めていきたいと思っておりますので、田原市さんにも是非ご協力をお願いしたいと思っております。</p>
<p>小川委員 (運輸支局)</p>	<p>事業評価の記載内容は、全体的には見やすくなっていると思っております。その中で2点修正をお願いできればと思っております。中部様式1の「3. 計画の達成状況」について、考察に利用者数が減少したとありますが、可能であればもう少し掘り下げた内容にしていただければと思っております。二つ目に4ページの(2) 網形成計画の目標に対する今後の方針も記載していただければと思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>網形成計画の目標に対する今後の方針については、公共交通会議を中心に各モードごとに利用促進を行っていく旨の記載をさせていただきます。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>中部様式の内容については、市内の公共交通全体の内容となりますので、コミュニティバスだけでなく、全体の方針についても記載していただければと思っております。</p>
<p>長神委員 (観光ビューロー)</p>	<p>先程からオープンデータの話も出ておりますが、私共も観光協会としてWILLERさんと二次交通の悪い渥美半島のモビリティサービスについて、今年は考えていきたいと思っております。また、資料の市内公共交通の目標値の欄でフェリーと高速船が合わさって記載されていますが、それぞれ事業主も違いますので、今後は分けていただければ、達成・未達成がそれぞれ分かりやすいかと思っております。特に高速船については、観光協会としても島巡りについて情報発信をしておりますが、少し危機感を持っているのが現状です。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>私からも何点か資料の記載内容についてお願いしたいと思っております。まず、1ページ目の「地域の交通の目指す姿」に網計画の内容が載っていますが、網計画という文字の記載がないので、網計画の内容と分かるように記載をお願いします。2ページ目の「⑥事業の今後の改善点」についてももう少し具体的に記載していただけると良いと思っております。また、中部様式2の「事業評価結果の反映状況」について、令和元年10月のコミュニティバスの変更内容の記載がありますが、高松線と八王子線は廃止したという記載しかないもので、これまで説明のあった、高松線の一部を表浜線に統合することや、資料3の八王子線の代替手段などについて記載をしていただければと思っております。また、サンテパーク線についてもどのように変更となったかを記載していただければと思っております。</p> <p>※協議事項 [承認](会議内での意見についての修正は、会長一任とする)</p> <p>[4 その他] (1) 意見・情報交換</p>

<p>長神委員 (観光ビューロー)</p>	<p>※渥美半島菜の花まつりについて、チラシで説明。</p>
<p>小川委員 (運輸支局)</p>	<p>※バスの運行中断に関する注意喚起及び中断する場合の届出について、資料で説明 ※バス・トラック運転乗車体験会について、チラシで説明</p> <p>(2) 次回の開催予定について</p>
<p>事務局</p>	<p>次回は3月中旬から下旬に開催を予定しております。内容につきましては、 ・令和2年度事業計画・収支予算(案) を議題とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>